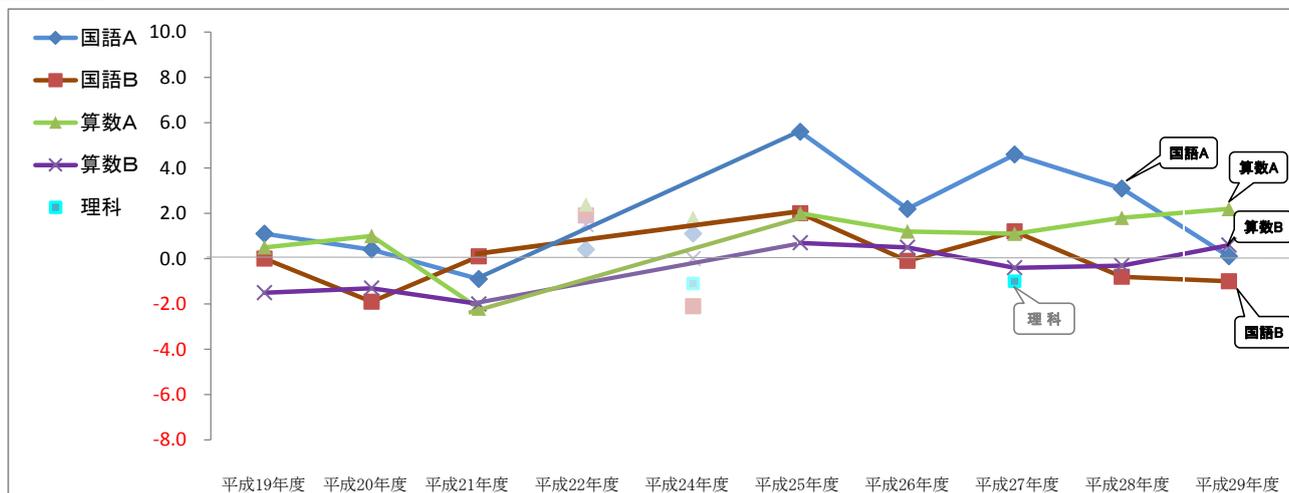


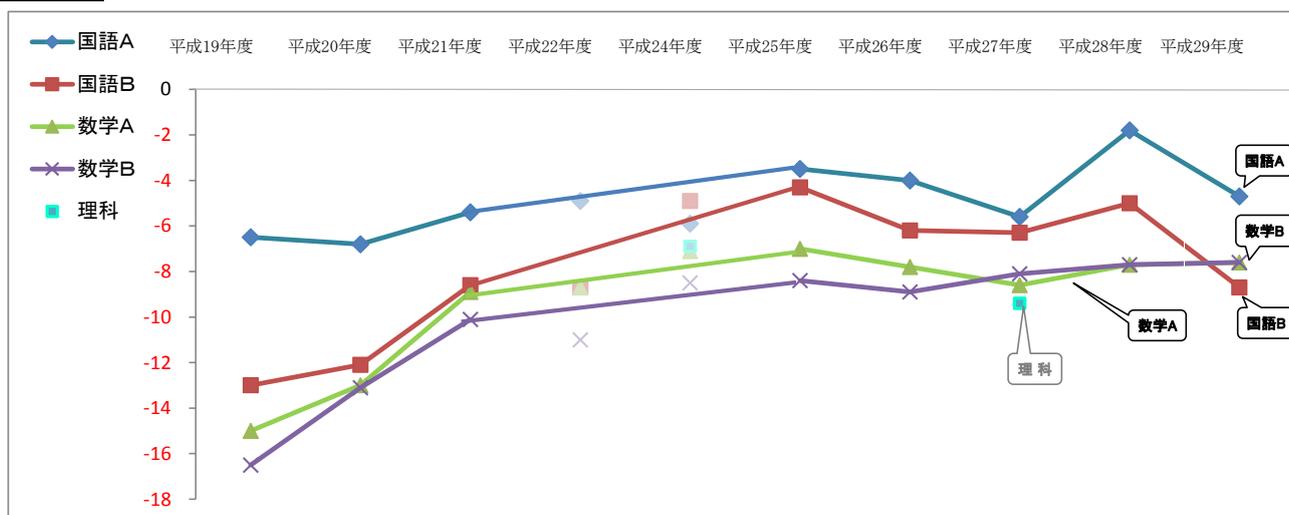
## 平成19～29年度における高知市平均と全国平均の差の推移

### 小学校



平成29年度の高知市の小学6年生の平均正答率は、国語Aにおいて0.1ポイント、算数Aが2.2ポイント、算数Bも0.6ポイント全国平均を上回りました。国語B問題は1.0ポイント下回りましたが、小学生については国語・算数ともに全国平均レベルを維持しています。調査結果から見た成果としましては、国語Aにおいて「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域が引き続き全国平均を上回る結果が見られており、算数においては、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域すべてにおいてA・Bともに全国平均を上回る結果となりました。さらに、算数B問題の記述式において、昨年度に続いて全国平均を上回る結果となっています。課題としましては、国語A・Bの「書くこと」「読むこと」の領域において、全国均正答率を下回る結果が見られています。この調査結果を基にした検証を進めながら、今後は、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の視点による、「資質・能力」の育成に向けた授業改善をすすめていきたいと考えています。

### 中学校



平成29年度の高知市の中学3年生の平均正答率は、国語Aが4.7ポイント、国語Bにおいては、正答率は昨年度と比較すると改善しているものの、全国平均を8.7ポイント下回りました。数学においては、A・Bともに全国平均との差が0.1ポイント上昇するという結果が見られました。全国平均を下回る状況は変わっていませんが、改善傾向が見られていることは一定評価できるものと考えています。また、本年度生徒質問紙調査では、「授業で学んだことを、他の学習や普段の生活に生かしていますか」の肯定的な回答の割合が全国平均を上回り、学習したことを日常生活に役立てようとする意識が高まっていることが窺えます。今後も新学習指導要領の理念の実現に向け、実社会で使える力を獲得し、学んだことを生かしながら新たな課題に挑戦するといった「資質・能力」の育成をベースとした授業改善を進めていきたいと考えます。